

株式会社日新

2014年3月期決算・中期経営計画説明会



「第5次中期(3カ年)経営計画」スタート

営業利益3割増へ

～ 自動車関連物流を軸にしたグローバル展開加速 ～



2014年5月23日

2014年3月期 実績

決算ハイライト

地域別・要因別
営業利益実績

航空・海上
物量実績

2015年3月期 計画

通期計画 ハイライト

地域別・要因別
営業利益計画

航空・海上
物量見通し

第4次中期 経営計画

第4次中期経営
計画の振り返り

数値実績

重点施策
成果・課題

第5次中期 経営計画

第5次中期経営計画
に対する考え方

数値目標

重点施策



- 14.3期実績は、国内外での自動車関連物流を中心に、増収増益
- 15.3期決算は、国内事業の回復継続と海外事業の拡大で、増収増益



- 数値目標は未達も、施策は、アジアでのインフラ構築など、着実に成果



第4次の成果を収穫

- 自動車関連物流を軸にしたグローバル展開加速と、国内事業再構築により、営業利益3割増を目指す

2014年3月期実績

～ 国内外での自動車関連物流を中心に増収増益 ～

2014年3月期実績 ハイライト

- 国内外での自動車関連物流を中心に順調に推移、日中関係の影響等を受けた国内港湾も後半から回復
- 中国1社と国内2社の連結子会社化および為替が収益に寄与
- 当期利益は、前年の保有株式減損、環境対策費が減少し大幅増益

(単位:百万円)

	2013年3月期 実績	2014年3月期				
		期初計画 (2013.5.8)	修正計画 (2013.11.6)	実績	修正計画比	前期比
売上高	175,230	194,000	194,000	193,709	△0.2%	10.5%
営業利益	3,422	4,500	4,100	4,042	△1.4%	18.1%
経常利益	3,558	4,600	4,200	4,681	11.5%	31.5%
当期利益	1,836	2,800	2,500	2,624	5.0%	42.9%

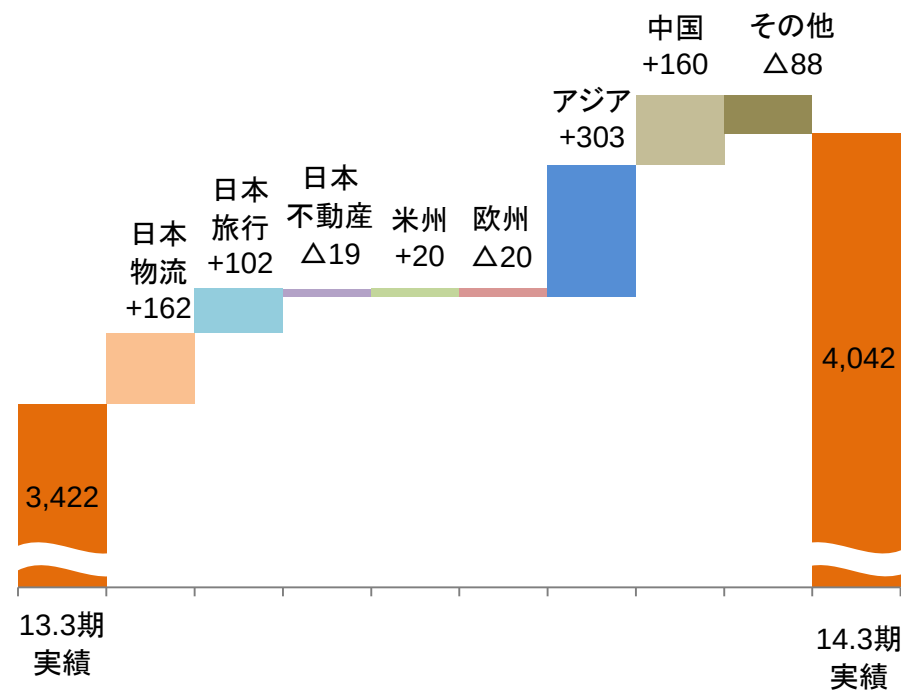
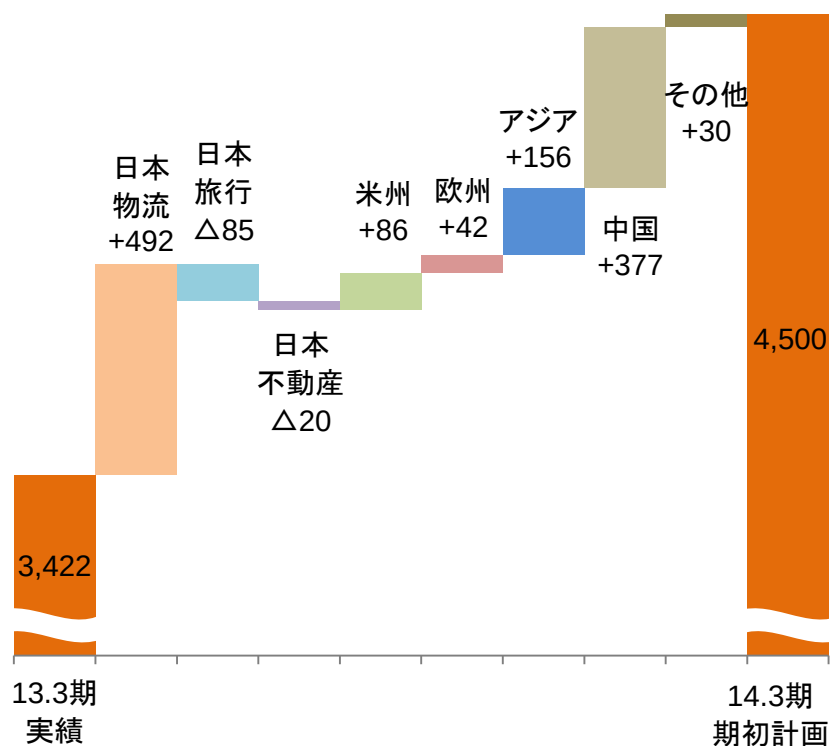
2014年3月期 地域別実績(営業利益)

- アジア、旅行事業は計画を大幅に上回ったものの、中国は現法の連結子会社化が遅れ、日本は物流事業の回復が後半にずれ込んだ

期初計画(2013.5.8)

実績

(単位:百万円)



※ 数値は、各地域の業績を分かりやすく説明するための社内集計値

2014年3月期 要因別通期実績(単体、営業利益)

期初想定(前年同期比増減)				実績(前年同期比増減)			概況
①自動車関連		上期計画	下期計画	通期計画	上期実績	下期実績	通期実績
北米・アジア向け部品輸送の堅調な推移							
	中国向け部品輸送の回復基調	+60 百万円	+40 百万円	+100 百万円	+150 百万円	+50 百万円	+200 百万円
	メキシコ向け設備機器の取扱増加						
②港湾運送・倉庫							
ターミナルでのコンテナ取扱拡大							
	ターミナルの固定費削減	+50 百万円	+100 百万円	+150 百万円	△120 百万円	+270 百万円	+150 百万円
	倉庫での取扱拡大・業務効率化						
③その他							
海上 輸入	製材、合板輸入の堅調な推移	+90 百万円	+140 百万円	+230 百万円	△30 百万円	△120 百万円	△150 百万円
	食品、日用品輸入の取扱増加						
化学品 関連	潤滑油、添加剤の輸出取扱増加						
	化学品生産回復による取扱増加						
航空 輸送	輸入取扱増加 (食品・花卉・アパレル等)						
	スペース仕入れの改善						

北米堅調、タイ減少

回復後、物量維持

順調、上期で終了

取扱回復

人員配置効率化効果

取扱拡大、業務効率化効果

合板輸入は競争激化

食品低迷、日用品堅調

海外需要拡大で輸出増
国内は低調

生産回復に遅れ

件数増も利益率低下

業務効率化効果

航空貨物

輸出取扱物量 →P8

- 日本は低調、米州は生鮮伸び悩みも、アジアは自動車関連貨物を中心に順調に推移、中国も自動車・スマホ関連貨物を中心に順調

日本発輸出混載取扱物量 →P9

- 自動車関連部品が収益に寄与したものの、電子部品をはじめ全般的に回復遅れ

日本着輸入取扱件数 →P10

- 自動車部品の取扱いが大幅に増加したほか、医薬品の取扱いも順調に推移

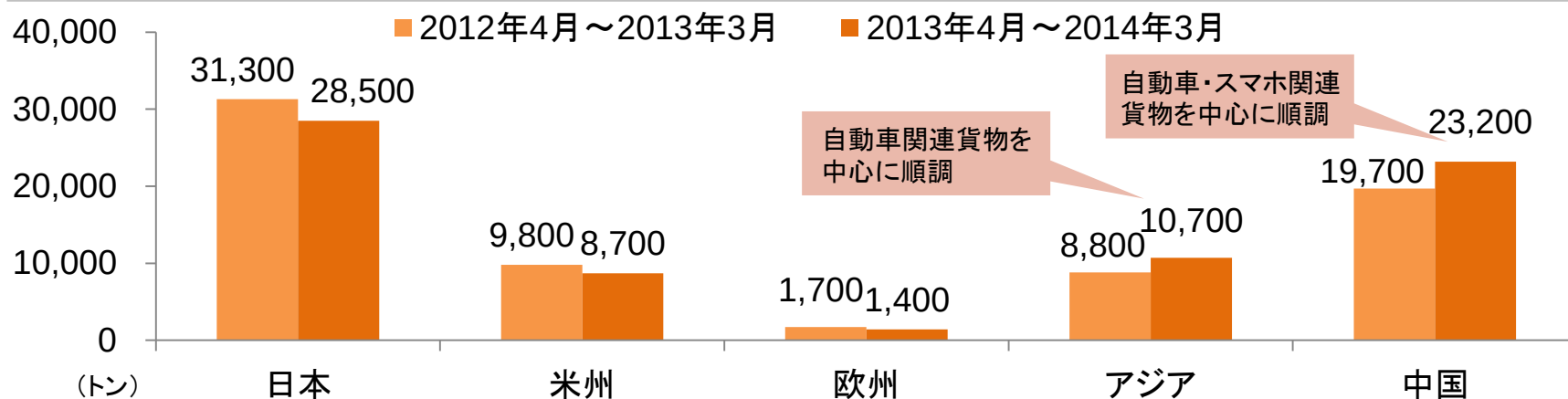
海上貨物

輸出取扱物量 →P11

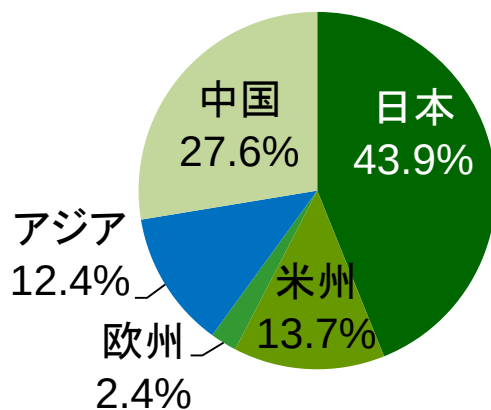
- 日本発は自動車関連が好調に推移、アジア発は自動車関連・家具・雑貨等が増加、中国は自動車関連・家具・雑貨等が後半回復

航空貨物 2014年3月期 輸出取扱物量

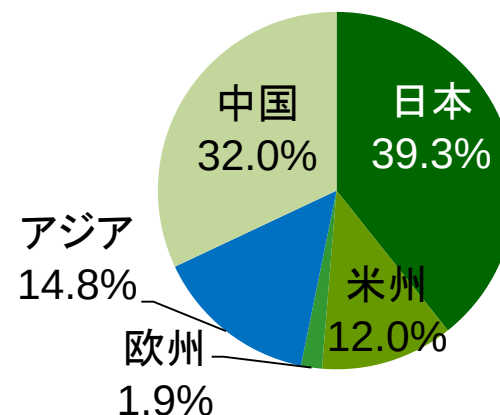
- 日本は低調、米州は生鮮伸び悩みも、アジアは自動車関連貨物を中心に順調に推移、中国も自動車・スマホ関連貨物を中心に順調



2012年4月～2013年3月 構成比

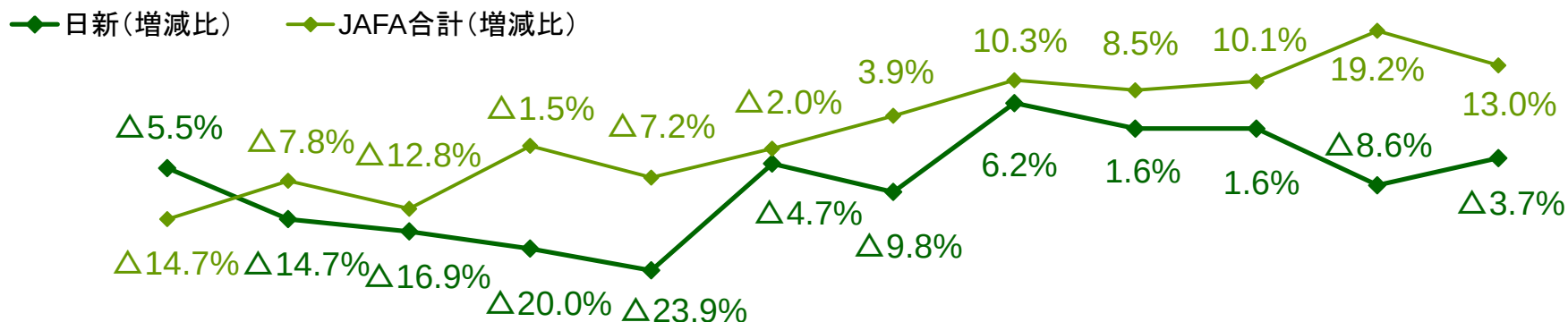


2013年4月～2014年3月 構成比

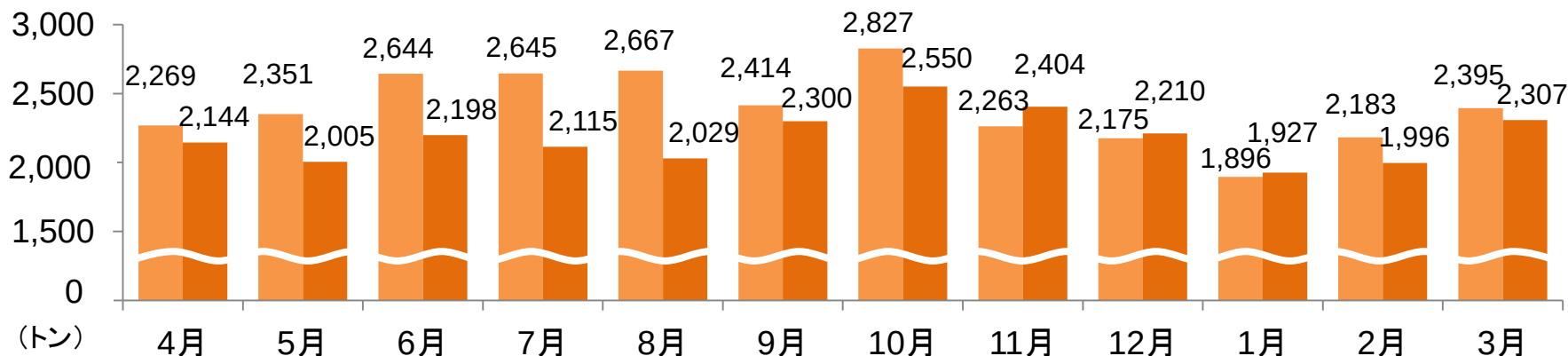


航空貨物 日本発輸出混載取扱物量 月別推移

● 自動車関連部品が収益に寄与したものの、電子部品をはじめ全般的に回復遅れ



■ 2012年度 ■ 2013年度



日本発
混載貨物
業界シェア

2012年度
(2012年4月~2013年3月)

3.36%

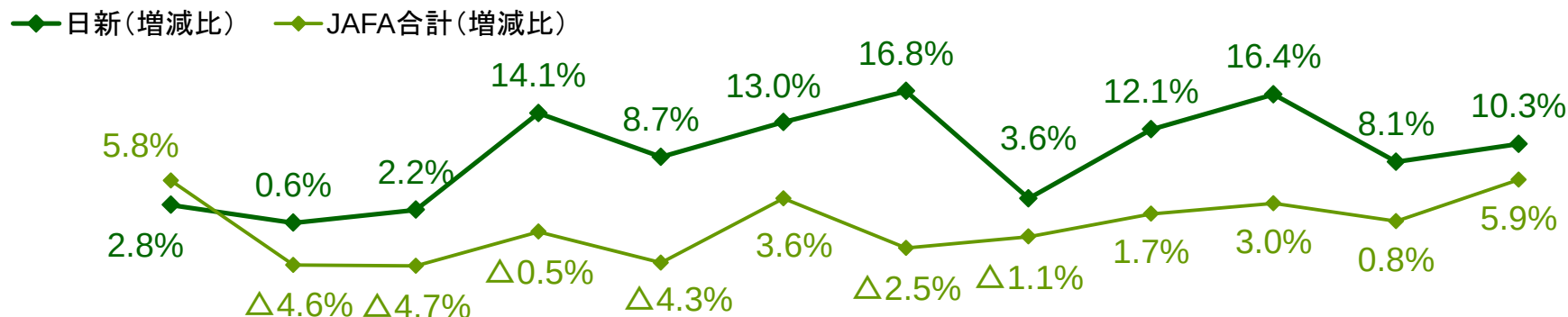
2013年度
(2013年4月~2014年3月)

3.04%

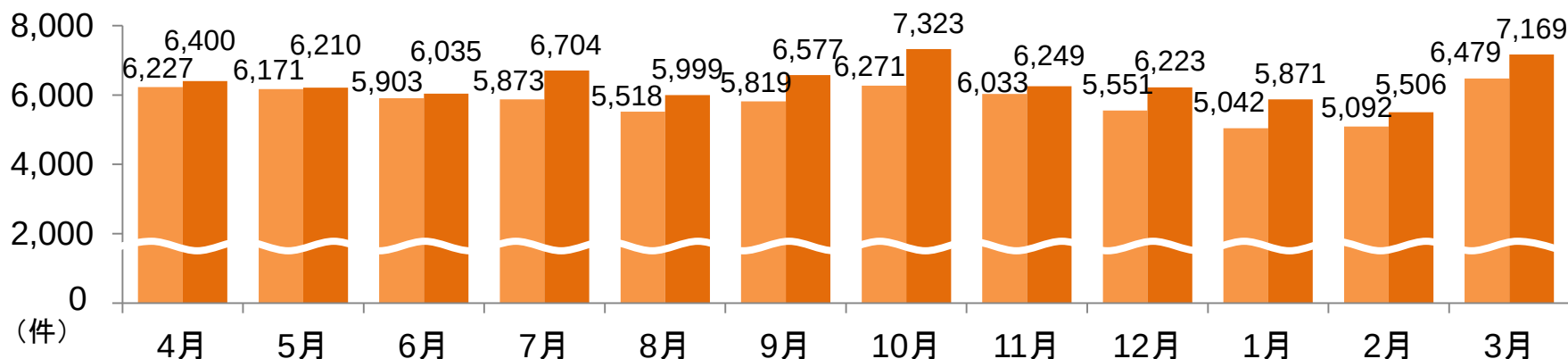
※ 業界シェアは当社推計

航空貨物 日本着輸入取扱件数 月別推移

● 自動車部品の取扱いが大幅に増加したほか、医薬品の取扱いも順調に推移



■ 2012年度 ■ 2013年度

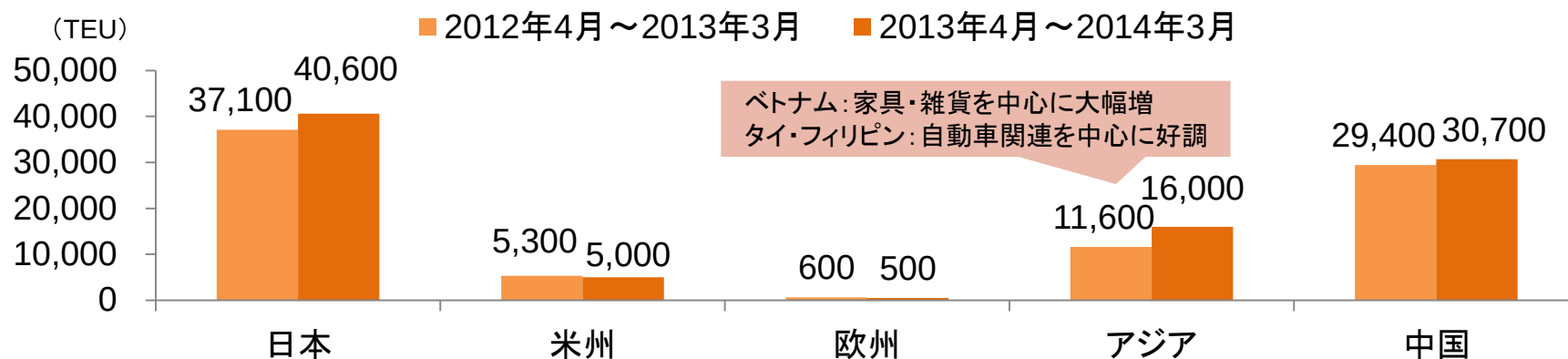


日本着 輸入貨物 業界シェア	2012年度 (2012年4月~2013年3月)	2013年度 (2013年4月~2014年3月)
	2.70%	2.93%

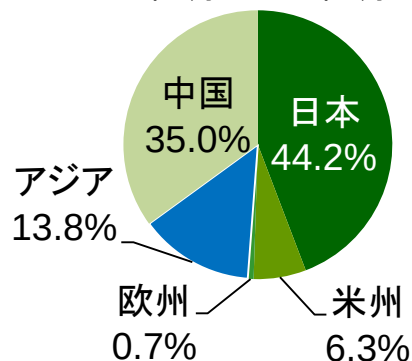
※ 業界シェアは当社推計

NVOCC(FCL) 2014年3月期 輸出取扱物量

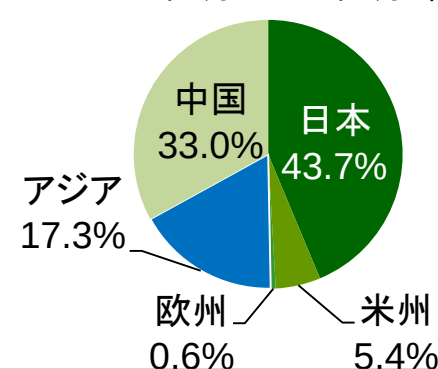
- 日本発は自動車関連が好調に推移、アジア発は自動車関連・家具・雑貨等が増加、中国は自動車関連・雑貨等が後半回復



2012年4月～2013年3月 構成比



2013年4月～2014年3月 構成比



※ TEU(Twenty feet Equivalent Unit): 20フィートコンテナ換算個数

日本発 米国向け 業界シェア	2012年度(2012年4月～2013年3月)	2013年度(2013年4月～2014年3月)
	5.18%	5.33%

※ 業界シェアは当社推計

2015年3月期計画

～ 国内事業の回復継続と海外事業の拡大で、増収増益 ～

2015年3月期 通期計画の前提条件

項目	想定	足元(4～5月)の状況
自動車関連	▲ 北米での完成車生産 増加 ▲ アジアでの部品生産 増加 ▲ 日本着の部品輸入 増加 ▼ 日本発完成車輸出 減少	● 北米での部品関連 堅調 ● アジア発部品輸出 順調 ● 日本着部品輸入 順調 ● 完成車輸出 減少
中国市場関連	▲ 日中貿易 回復 ▼ 中国経済 減速懸念	● 中国船の寄港 増加 ● 日中間の輸出入 回復 ● 中国経済の減速懸念 継続
電機・電子関連	▼ 業界の先行き 不透明	● 国内配送 駆け込み反動
その他・一般	▲ 日本着の製材輸入 堅調 ▲ 日本発航空貨物マーケット 回復	● 製材輸入 堅調継続 ● 航空輸出 回復基調も不透明
為替相場	2015年3月期 予算策定レート 1\$=¥102.92 EUR=¥141.65	1\$= ¥101.60(2014年5月22日) 【為替換算差(営業利益段階)】 米ドル、ユーロは1円の変動で、 17百万円の影響

2015年3月期 通期計画

- 国内事業の回復継続と、海外事業の拡大で、増収増益を見込む

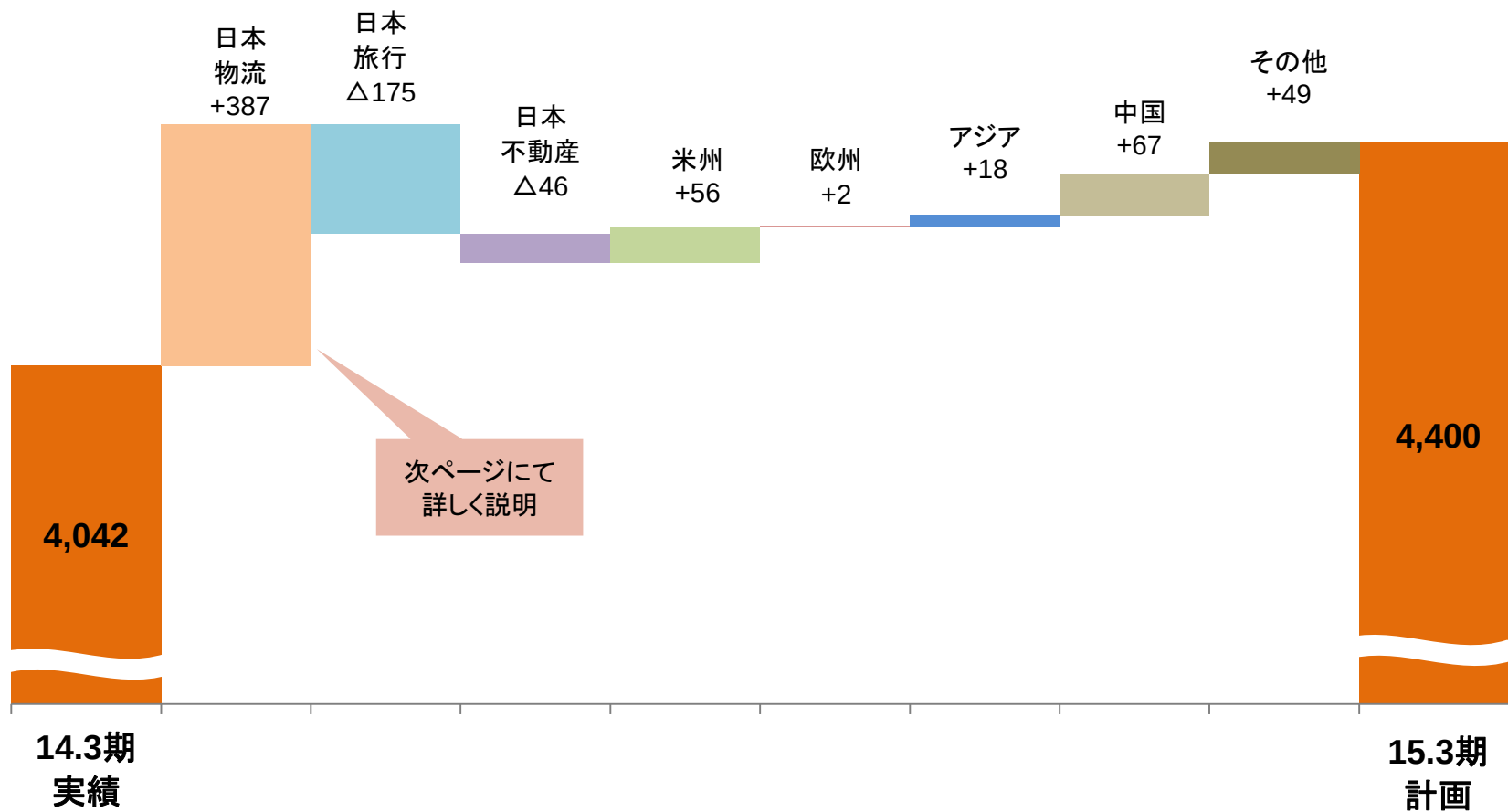
(単位:百万円)

	2014年3月期	2015年3月期		
	実績	計画	増減額	前期比 (%)
売上高	193,709	198,000	4,291	2.2%
営業利益	4,042	4,400	358	8.8%
経常利益	4,681	4,700	19	0.4%
当期利益	2,624	2,900	276	10.5%

2015年3月期 地域別通期計画(営業利益)

- 旅行は競争激化も、日本での物流事業伸長に加え、米州で取得子会社が寄与開始
- 国内外での、更なる自動車関連貨物の取り込みに注力

(単位: 百万円)



※ 数値は、各地域の業績を分かりやすく説明するための社内集計値

2015年3月期 要因別通期計画(単体、営業利益)

通期計画想定(前年同期比増減)

①自動車関連		
北米・中国向け部品輸送の堅調な推移		+60百万円
日本着部品輸入の取扱増加		
②港湾運送・倉庫		
中国船社他の大型船化によるターミナルでのコンテナ取扱拡大		+160百万円
ターミナル業務の人員配置効率化		
倉庫の集約による業務効率化		
③その他		
海上輸入	製材輸入の堅調な推移と合板の取扱回復	+180百万円
	日用品輸入の取扱増加	
	食品輸入の取扱回復	
化学品関連	潤滑油、添加剤の輸出取扱増加	
	化学品生産の回復による取扱増加	
航空輸送	輸入取扱増加（食品、花卉、アパレル等）	
	混載効率の改善	

航空貨物 2015年3月期 地域別輸出取扱見通し

- 米州発は自動車関連、アジア発は自動車関連に加え花卉の物量増を見込む
- 中国発は堅調に推移

仕出地	2014年3月期 (2013年4月～2014年3月)	2015年3月期 (2014年4月～2015年3月)		
	実績(トン)	見通し(トン)	前期比	トレンド
日本	28,500	28,500	0.0%	
米州	8,700	9,100	4.6%	
欧州	1,400	1,400	0.0%	
アジア	10,700	11,300	5.6%	
中国	23,200	23,600	1.7%	
合計	72,500	73,900	1.9%	

NVOCC(FCL) 2015年3月期地域別取扱見通し

- 米州発は自動車部品・食品、アジア発は自動車生産設備・自動車部品・化学品、中国発はアパレル・雑貨などの増加を見込む
- 日本発は自動車生産設備・部品など前年並みを見込む

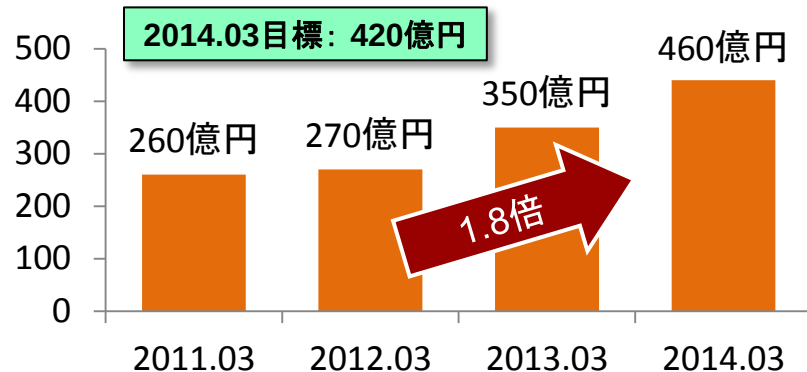
仕出地	2014年3月期 (2013年4月～2014年3月)	2015年3月期 (2014年4月～2015年3月)		
	実績(TEU)	見通し(TEU)	前期比	トレンド
日本	40,600	40,650	0.1%	
米州	5,000	5,300	6.0%	
欧州	500	550	10.0%	
アジア	16,000	17,000	6.3%	
中国	30,700	31,500	2.6%	
合計	92,800	95,000	2.4%	

第4次中期経営計画の振り返り

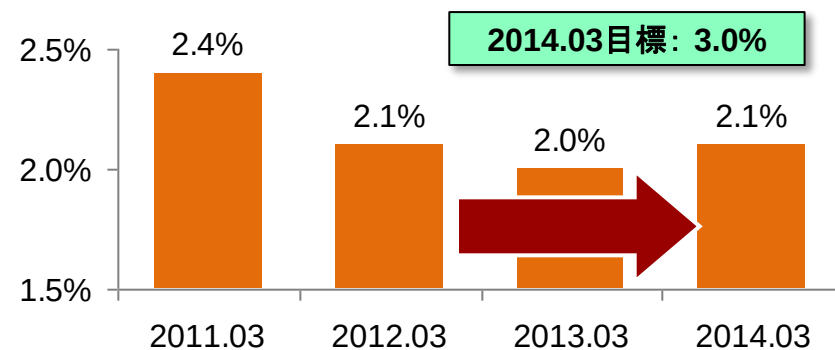
～ 数値目標は未達も、アジアでのインフラ構築など着実に成果 ～

第4次中期経営計画 ～ 実績 ～

海外現地法人の売上高拡大



利益率の向上



(単位: 百万円)

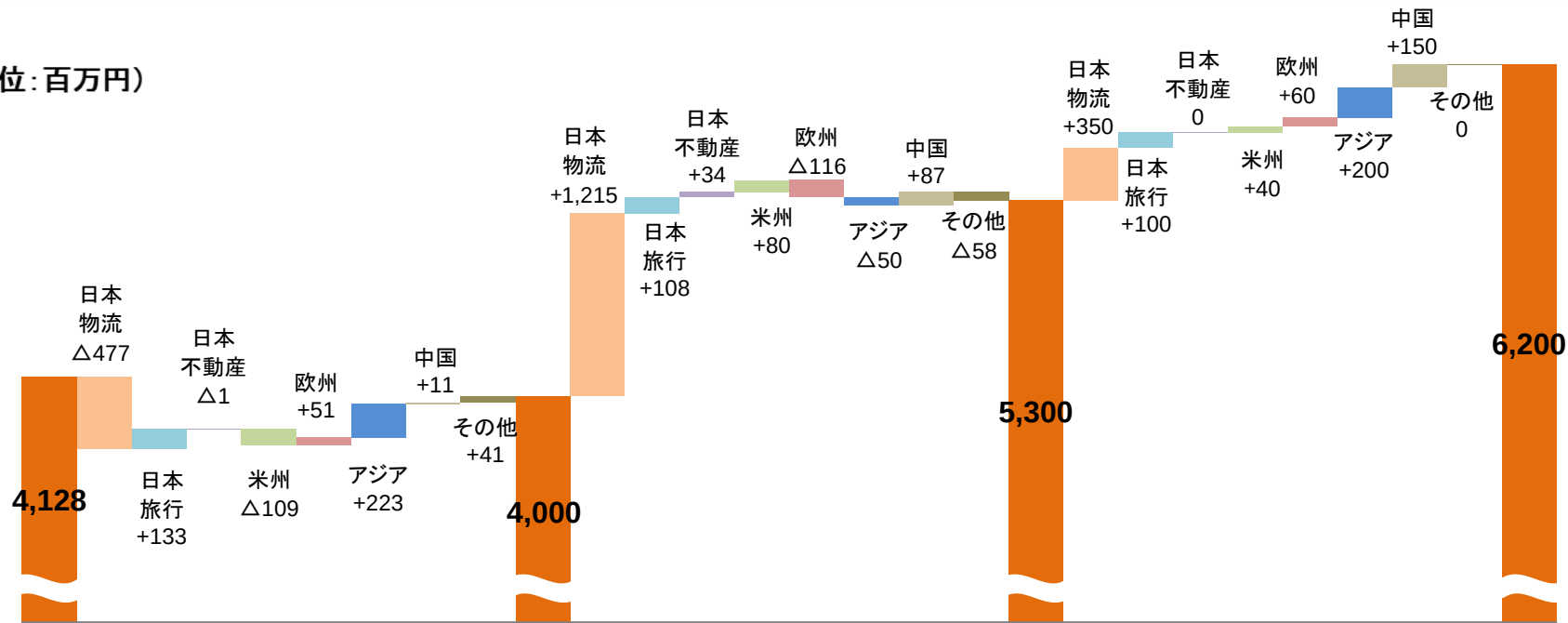
	2011年3月期 実績	第4次中期経営計画					
		2012年3月期		2013年3月期		2014年3月期	
		当初計画	実績	当初計画	実績	当初計画	実績
売上高	175,478	178,400	179,059	197,000	175,230	210,000	193,709
営業利益	4,128	4,000	3,791	5,300	3,422	6,200	4,042
経常利益	4,357	4,000	4,119	5,500	3,558	6,400	4,681
当期純利益	1,984	2,000	1,951	3,300	1,836	4,000	2,624
営業利益率	2.4%	2.2%	2.1%	2.7%	2.0%	3.0%	2.1%
ROE	5.4%	5.3%	5.3%	8.3%	4.7%	9.3%	6.1%

※ 2012年3月期 会計方針変更、2011年3月期の売上高は遡及処理後の数値

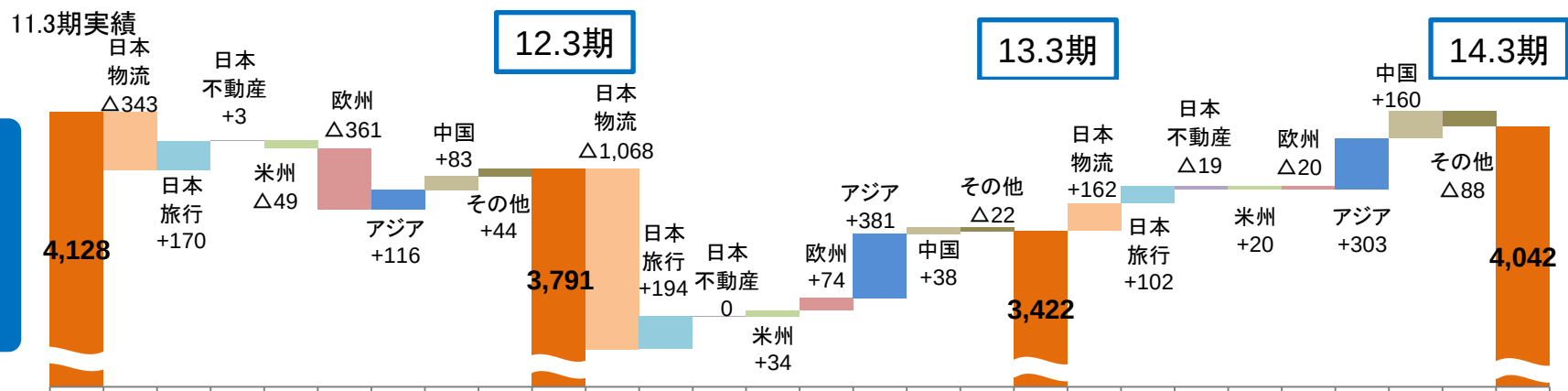
第4次中期経営計画実績推移

(単位:百万円)

当初計画



実績



11.3期実績

※ 数値は、各地域の業績を分かりやすく説明するための社内集計値

第4次中期経営計画 ～ 5つの重点施策は第5次へ ～

5つの重点施策	取り組み・成果		
1. フォワーディング事業の強化	● 航空・海上・NVOCC事業の拡大 ● 自動車・電機電子・化学品分野を軸に営業強化		
2. 成長・新興国への注力	● 中国		● 深圳現法設立 ● 日新中外運・上海高信持分増
	● 東南アジア	タイ	● BCC設立、低温輸送開始 ● タイ・マレーシア間トラック輸送体制拡充
		ベトナム	● ブロックトレイン運行開始
		ラオス	● ラオス日新設立、MLB開始
	● その他	インド	● インド日新持分増、トラック増車(300台体制) ● チェンナイ、バンガロール拠点開設
		メキシコ	● セラヤ、シラオに自動車産業向け倉庫開設 ● メキシコシティ、グアダハラ拠点開設
3. 国内事業の整備・強化	● CRE企画室設置、流動化実施 ● 陸運事業拠点の集約		
4. 新たな成長モデルの開発・育成	● 海上危険品混載サービス・ISOタンクコンテナ輸送サービス開始		
	● アジア向け食品専用海上冷凍混載サービス開始		
5. 強固な経営基盤の確立	● グループ標準の業務・会計システムの導入拡大		
	● CMSのグループ会社への展開拡大		

第5次中期経営計画

営業利益3割増へ

～ 自動車関連物流を軸にしたグローバル展開加速 ～

第4次中期経営計画から第5次中期経営計画へ

第4次中期経営計画

主な取り組み

継続課題

① フォワーディング事業
の強化

- ・ 海外拠点の事業基盤強化
- ・ 顧客層の拡大

② 成長・新興国への注力
リソースの重点投入

- ・ アジア広域物流網の構築
- ・ メキシコ拠点の強化

③ 国内事業の整備・強化

- ・ 老朽化施設の再開発
- ・ 不採算事業の再構築

④ 新たな成長モデルの
開発・育成

- ・ 食品物流の強化
- ・ 医薬医療物流への展開

⑤ 強固な経営基盤
の確立

- ・ 資産効率化の推進
- ・ リスク管理体制の強化

第5次中期経営計画



更なる強化・拡大

継続課題

① 海外事業の強化・拡大

② 国内事業の再構築

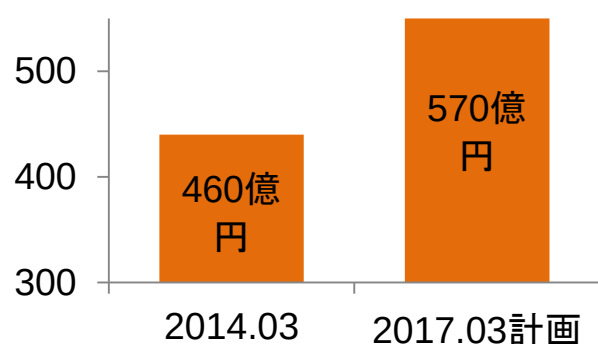
③ 経営基盤の強化

第5次中期経営計画 ～ 3つの重点施策 ～

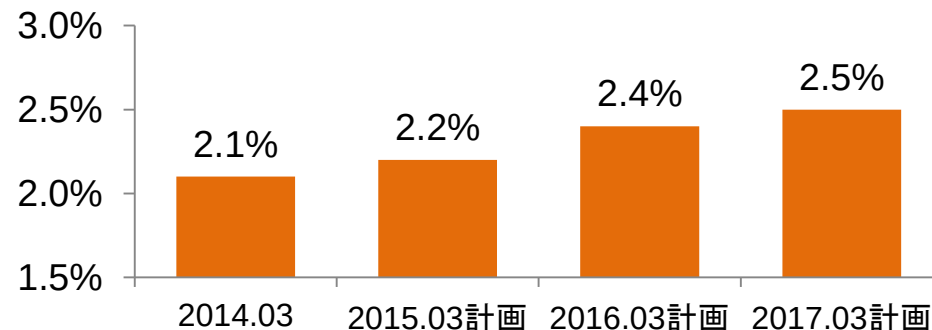
3つの重点施策	取り組み	
1. 海外事業の強化 自動車関連物流を軸に展開加速	● 重点地域	● 米国・メキシコ、タイ・インドネシア・インド、中国
	● 海外現地法人の事業基盤強化	● フォワーディング、ロジスティクスの高品質化 ➢ グローバルSCMへの対応 ● 新たな業務・顧客の開拓 ● リスク管理体制の強化
	● 海外地域別の取り組み	
	● 米州	● 自動車関連物流の拡大(メキシコ、米中西部) ● 食品物流の強化 ● 米系顧客の拡大
	● アジア	● 自動車関連物流の拡大 ● 大メコン圏・マレー半島広域物流網の整備 ● ラオス、ミャンマー、カンボジアでの事業展開推進
2. 国内事業の再構築 コスト競争力の強化	● 収益力向上	● 陸運事業の再構築 ● ターミナル事業の再編、効率化
	● 新規事業展開、既存業務の拡大	● 自動車関連物流の強化 ● 成長分野(食品・医薬医療・危険品物流)への展開強化 ● 高収益施設への建替え ● ITサービス提供の事業化推進
	● 効率的組織への再編	
3. 経営基盤の強化	● 資産の効率化	● 管財機能の強化、不動産の活用
	● グローバルリスク管理体制の強化	

第5次中期経営計画

海外現地法人の売上高拡大



連結営業利益率の改善

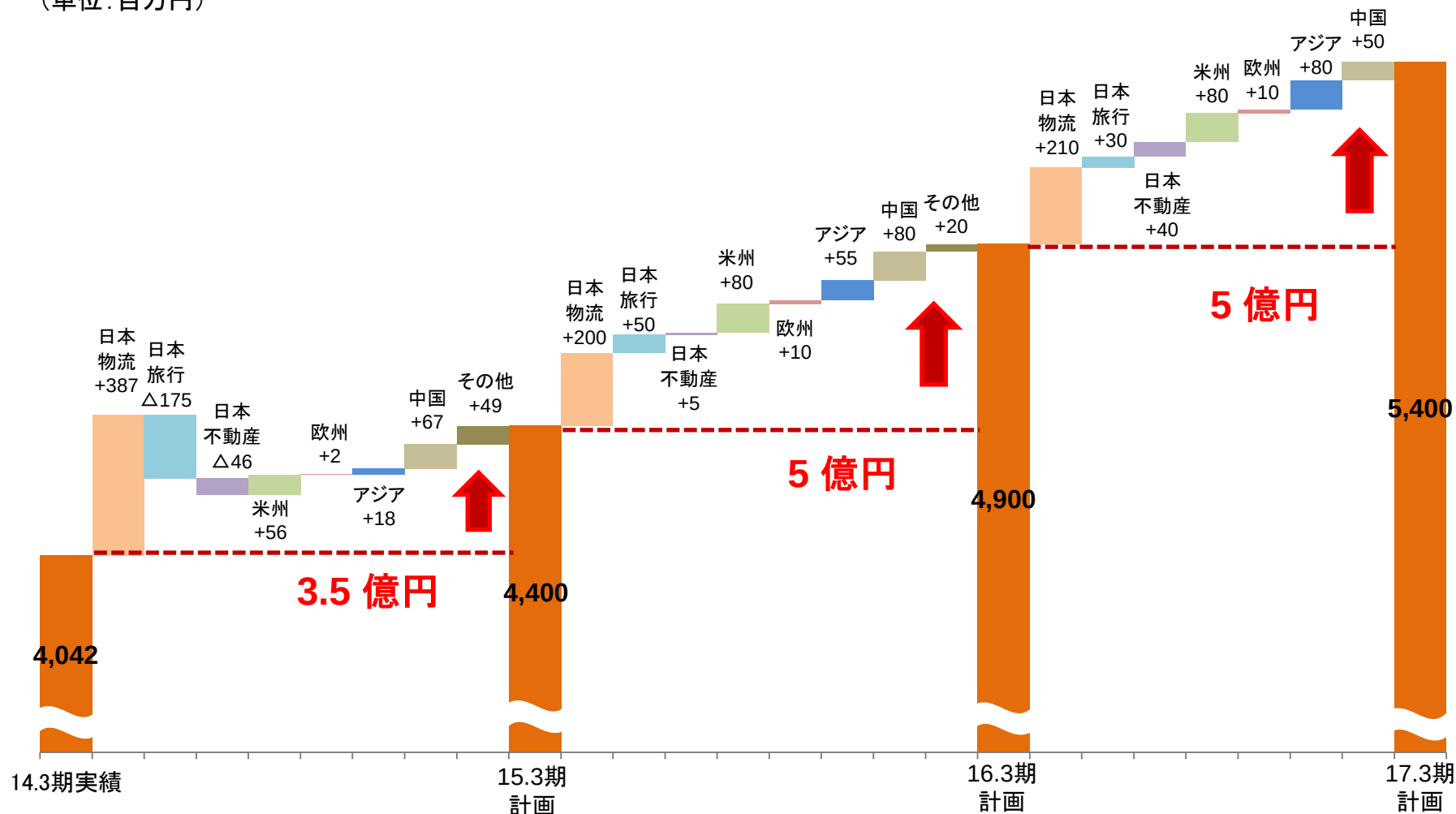


(単位: 百万円)

	2014年3月期 実績	第5次中期経営計画			
		2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期	
		計画	計画	計画	2014年3月期比
売上高	193,709	198,000	205,000	213,000	10.0%
営業利益	4,042	4,400	4,900	5,400	33.6%
経常利益	4,681	4,700	5,100	5,600	19.6%
当期純利益	2,624	2,900	3,300	3,600	37.2%
営業利益率	2.1%	2.2%	2.4%	2.5%	—
ROE	6.1%	6.4%	6.7%	7.2%	—

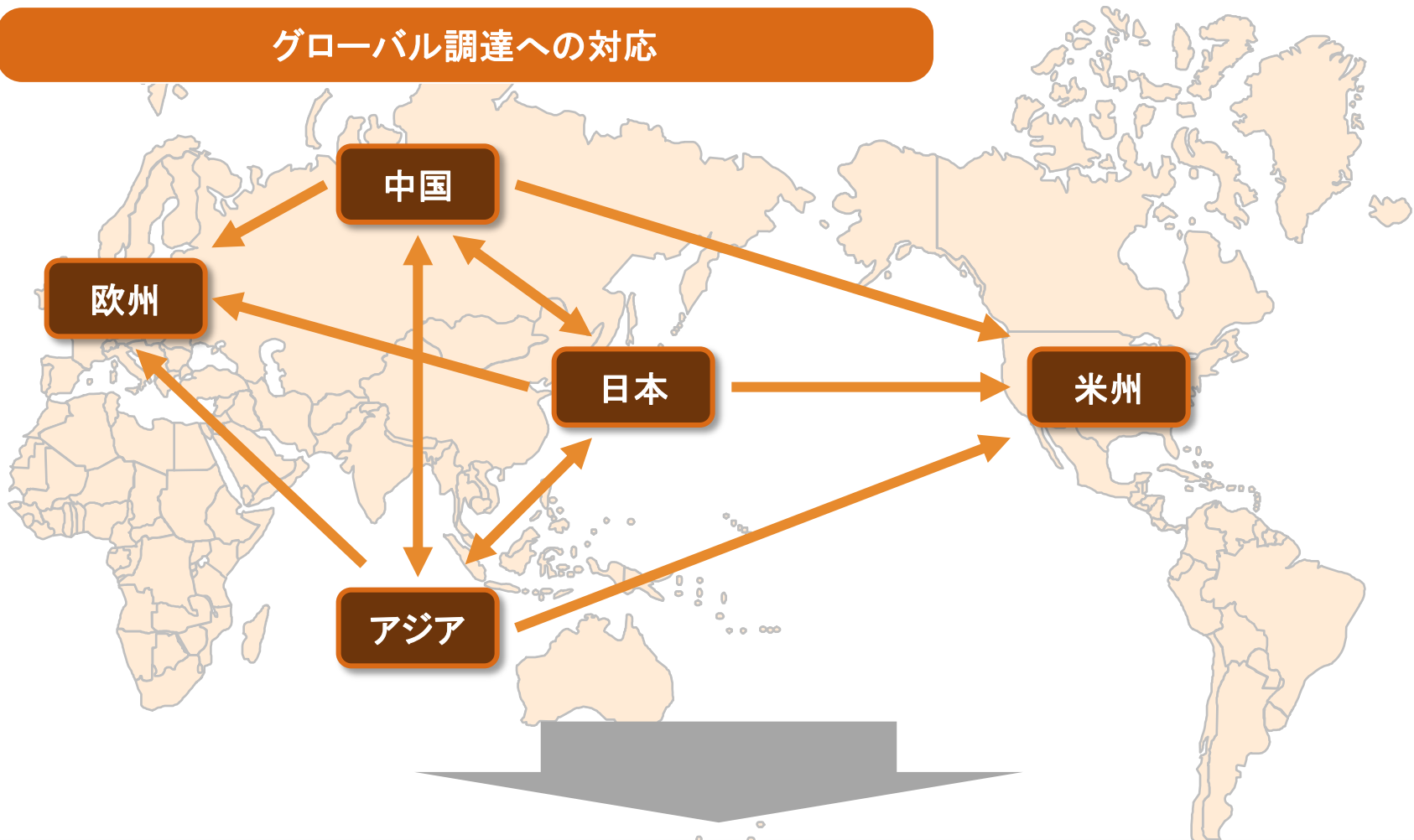
第5次中計期間に13.5億円の利益上積み

(単位:百万円)



※ 数値は、各地域の業績を分かりやすく説明するための社内集計値

グローバル調達への対応



ネットワークとソフトの融合、多極間物流への対応

日新の強みは、「拠点」と「サービス」と「人」の総合力

グローバル ネットワーク

海外23カ国のネットワーク
による高品質・安全・安心の
物流サービスをドアツードア
で提供、多国間物流への対応

経験・実績

世界各地で自動車関連物
流サービスを提供

- ・ 米国 オハイオ、アラバマ
- ・ カナダ アリントン
- ・ 英国 スウィンドン
- ・ マレーシア マラッカ
- ・ メキシコ セラヤ、シラオ
- ・ 日本 横浜・大黒、栃木

物流サービス

自動車産業向け高度な物
流サービスを提供

- ・ JIT納入倉庫の運営
- ・ 輸出自社梱包
- ・ 小組作業への対応
(メキシコ)
- ・ IMMEX認定倉庫
- ・ 顧客IMMEX保税業務

ITシステム

シームレスなグローバルシ
ステムでSCMをサポート

- ・ 輸送途中在庫、各拠点
ステータスの見える化

ネットワークとソフトの融合、多極間物流への対応

アジア戦略 ～ アセアン域内広域物流網 ～



新設倉庫施設

シンガポール・マレーシア倉庫施設拡充

- 2013年10月 マラッカ新倉庫稼働開始(8,500㎡)
- 2014年2月 タイ・プラチンブリ県で自動車向け新倉庫稼働(5,400㎡)
- 2014年1月 シンガポール新倉庫稼働(5,800㎡)

メコン圏物流網

ベトナム

- 2008年6月 カーワゴン(四輪車輸送)運行開始(20両保有、週5往復)
- 2012年11月 ブロックトレイン運行開始(現行、21両編成、週3往復)
- 2013年11月 ダナン支店開設

タイ

- 2012年4月 低温輸送サービスを提供開始

タイ・バンコク～ラオス・サバナケート～ベトナム・ハノイ

- 2012年3月 メコン・ランド・ブリッジサービスを提供開始
- 2013年5月 定期混載便開始

カンボジア

- 2014年4月 MLBトラックによる、ラオス・ビエンチャンからカンボジア・プノンペンへのルート完成

マレー半島物流網

シンガポール～マレーシア～タイ・バンコク

- 1998年よりクロスボーダー輸送サービスを提供中

ラオス・ビエンチャン～カンボジア・プノンペン間の直送輸送に成功

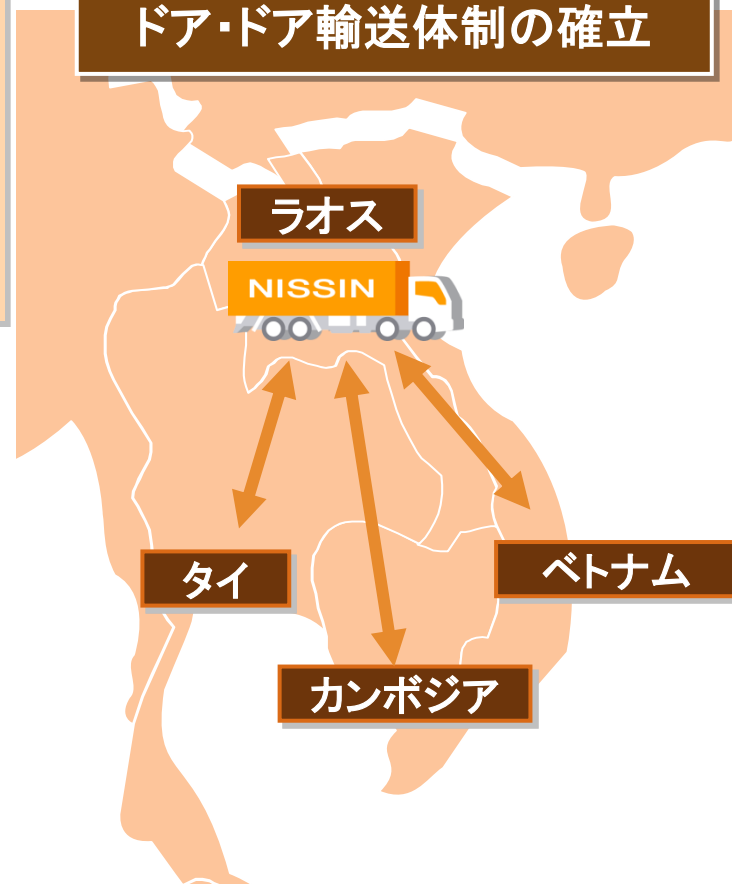
ラオス日新の45ft HC コンテナ車両14 台は、ラオス・カンボジア二国間輸送協定に基づいた通行認可を取得し、ラオス籍トラックとして初めてラオス・ビエンチャンからカンボジア・プノンペンへの直行輸送に成功

国境の積替え作業不要の
ドア・ドア輸送体制の確立



直送輸送の様子

ラオスを中心とした4か国の
ドア・ドア輸送体制の確立

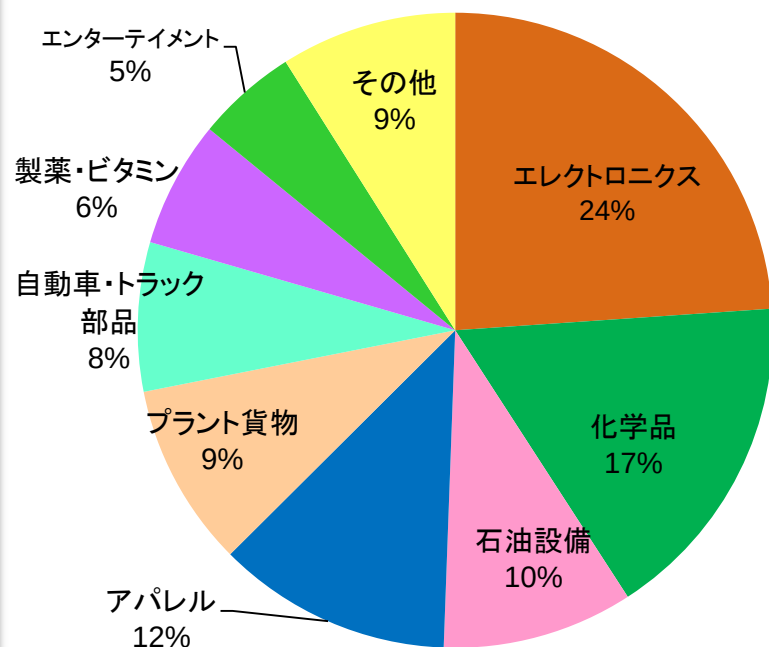


顧客層の拡大 ～ 非日系、新たな業種の開拓 ～

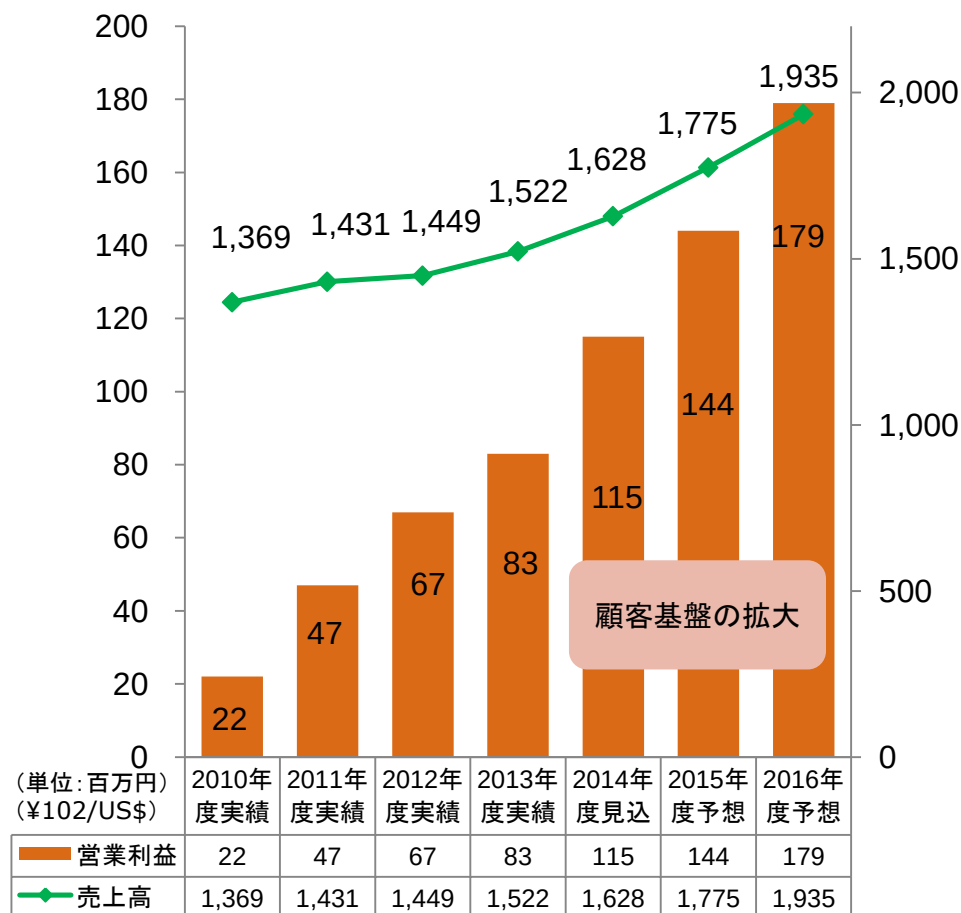
- Total Transportation Concept, Inc. (TTC社) は、ロサンゼルスに拠点を置く米系物流企業。航空・海上国際輸送を中心に多業種にわたる米系顧客を有する

- 1987年10月設立
- 所在地: ロサンゼルス
- 資本金: 300千USドル

TTC社業種別売上高(トップ20顧客業種)
(2009年～2013年)



TTC社の業績予想



(総括) 本日の決算説明会のポイント

2014年3月期実績

前期比 増収増益

- 国内外で自動車関連物流を中心に順調に推移、日中関係の影響等を受けた国内港湾も後半から回復し、増収増益
- 中国1社と国内2社の連結子会社化および為替が収益に寄与

2015年3月期通期計画

増収増益

- 旅行は競争激化も、国内事業の回復継続と海外事業の拡大で、増収増益を見込む
- 米州で取得子会社が寄与開始
- 国内外での更なる自動車関連貨物の取り込みに注力

第5次中期経営計画

第5次スタート 第4次の成果を 収穫

- 第4次中計経営計画は、数値目標は未達も、施策はアジアでのインフラ構築など、着実に成果
- 第5次中期経営計画では、自動車関連物流を軸にしたグローバル展開加速と、国内事業の再構築により、営業利益3割増を目指す

Memo